

教育目標:	
目指す学校像:	輝く未来を創造し、国際社会に進んで貢献できる生徒が育つ学校 ◎個性や能力を生かし、「確かな学力」を育むことができる学校 ◎思いやりのある豊かな心を育み、安心して活動できる学校 ◎心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校
目指す児童・生徒像:	個性と創造力豊かな生徒 ◎互いを尊重できる人間性豊かな生徒 ◎自ら進んで自己実現に向けて学び続けようする生徒 ◎心身ともに健康で、生きがいを持ち自立できる生徒
目指す教師像:	◎共感する姿勢をもち生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師 ◎創意ある教育活動の推進に意欲的に取り組むことのできる教師 ◎高い人権意識感覚を持ち、自ら模範となり伝えることのできる教師

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
豊かな心の醸成	人権尊重の理念を基調とした教育を推進し、互いに認め合い、思いやりのある豊かな心を育む。	生徒主体の学校行事を推進し、学級での居心地感を高めることで自己肯定感を育て、いじめ根絶と不登校生徒減少に努める。	安心して集団生活が送れるよう、毎学期アセスメントを実施し、結果を指導に活かすとともに、自己理解を促し、自己肯定感の育成に努め、居心地の良い学級づくりを行う。	3		4		○1学期は学級づくり等に時間がかかるとはいえ、教員の約3割が指導に生かしきれていない事実は残念。 ◎教室の狭さも、学級での居心地の良さに影響するのではないかと。2,3年生は特に学校公開で保護者が後ろに並ぶととても窮屈に感じる。	○あいさつが飛び交う学級、学校づくり。生徒会や地域を巻き込んだあいさつ運動等の取り組みを実施するのはどうか。 ◎行事の写真やスローガンの他に、視覚的にリラックスできる絵や写真等の掲示物があるといいのではないかと。 ◎来校者を分散させるため、学校公開日を複数日設定する。
			学校いじめ防止基本方針に基づき組織的な対応を徹底する。不登校解消のために、SC・SSW等と協力して教育相談活動を進める。日常的に良好な人間関係構築に努め、人権尊重と信頼に基づく学習・生活の場を築く。	4		3		○アンケートの時期が早いので、信頼していた先生と離れたり、新しいクラスに慣れていないため相談できる先生がいないと答えた生徒がいたのではないかと。 ◎いじめ問題を自分たちで解決できる生徒が多いのではないかと。 ◎組織的な取り組みができています。	○「心の扉を開くのは明るいあいさつから」 あいさつが飛び交う学級、学校づくり。生徒会や地域を巻き込んだあいさつ運動等の取り組みを実施するのはどうか。 ◎否定的な回答だった0.2%の生徒の観察や情報収集、日頃から声掛け等、高いアンテナをもち、きめ細やかに対応を行ってほしい。
			「特別な教科 道徳」の授業の内容や指導法の工夫・改善を行い、「考える道徳」「議論する道徳」を推進する。	4		4		○授業内容や指導の工夫・改善に積極的に取り組んでいる成果と考える。	○「考え、議論する」だけでなく実践、行動できることが大切。どんなに小さなことでも、善い行い(善行)をお互いに認め合える場を意図的につくる。 ◎他と意見が違っても、恥ずかしがらずに発言する勇気や、優しい言葉で議論するスキルも身に付けてほしい。
確かな学力の定着	個性や能力を生かす「わかる授業」、 「興味・関心のわく授業」の実現に努める。	各教科、領域等で記録、要約、説明、発表、討論、討議などの言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの一層の充実を図り、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。	GIGAスクール構想による一人一台端末の効果的活用を更に進め、指導方法や評価方法を工夫し、個別最適な学びと協働的な学びの充実による「デジタルを活用したこれからの学び」を推進する。	3		3		○端末を使うことが得意な生徒と苦手な生徒で、授業時間内にできることに差が出ていると感じる。グループ発表では得意な子に資料作りを任せ、苦手な子は時間を過ごしてしまうことがある。 ◎どういった場面でのように活用するのか、試行錯誤と成果の共有をさらに進める。	○アプリケーションを文具のひとつとして使いこなすスキルを身に付けてほしい。 デジタル支援員の導入や、フレン資料を作るのが得意な生徒から機能の使い方を教えてもらおう、生徒同士が学び合う時間を設けてはどうか。 ◎単なる検索や発表のためのツールだけでなく、思考を深めたり広げたりするツールとしての使い方をさらに充実させてください。
			各教科等における言語活動の推進・充実に努め、習得・活用・探究という学習活動の在り方を研究し、日常的に授業改善を推進する。	4		4		○授業中に皆の前では発言しないが、グループワークの際には思い付いたことを発言できる生徒が多いと感じる。 ◎全教科を通して、言語活動を取り入れた授業が行われていることは素晴らしい。言語活動の質の向上が今後の課題。	○「単なる事実や感想の伝達・共有」だけではなく、「考える言語活動」と言語活動後の指導を実施する。 ◎生徒が発表の仕方・方法を自由に選ぶ、「学習の個性化」という視点をもつ。 ◎発言する前に思いを文章としてまとめる力もつけてほしい。
			日常における読書習慣の確立に向けて、読書の楽しさを伝える取り組みを推進する。						
体の健康な育	体力・運動能力の向上を図り、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活が送れる力を育てる。	基本的な生活習慣と結び付けた運動の日常化を推進する。	保健体育の授業や運動部活動等を通して日常的な意識啓発を行い、生徒の体力・運動能力の向上に努め、健康な体の育成を図る。			3		○健康な生活とは何か、自分にとっての強みや弱みは何か、考えさせたい。 ◎子どもは親を見て育つ部分も多いと思う。日常的に運動している保護者も少ないのではないかと。 ◎指標の基準が高すぎたのではないだろうか。	○学校ができることと家庭がすべきことがある。食事や睡眠等、家庭生活に対する意識啓発や情報発信を行う。 ◎校内だけでなく、地域ボランティアへの参加を通して高齢者支援や小さい子たちのレクリエーションで体を動かすことも推進してほしい。
輝く未来の創造	持続可能な社会を目指し、愛校心・郷土愛を育み、所属感・連帯感を養うことにより、地域との連携や社会貢献への意識を高める。	保護者や地域と連携した多様な教育活動を行い、愛校心・郷土愛を育み、所属感・連帯感を養うことにより、進んで社会に貢献できる力と態度を育てる。	コミュニティ・スクールとして、地域と連携した教育活動を通して、生徒と地域住民とのつながりを深めるとともに、生徒に地域ボランティアへの参加を促し、社会貢献、地域貢献への意識の向上を図る。						
			コミュニティ・スクールとして、地域に開かれた学校及び地域とともにある学校の考えのもと、学校だよりや学校ブログ等を活用し、保護者や地域へ積極的に情報を発信する。			4		○自治会やPTAの加入者は年々減少しており、日々忙しく社会貢献への意欲が持てない大人や、地域がつながる必要性を感じていない大人が増えていると感じる。 ◎コミュニティ・スクール1年目、足場を固めできることから積み重ねることが大切だと思う。 ◎学校だよりが自治会の回覧板でみられるのがありがたい。 ◎地域に開かれた学校及び地域とともにある学校の考えのもと、学校からは丁寧な説明があり進捗状況や取組の難しいところなど非常に良く説明され保護者や地域に学校の様子がよく伝わってきていると思います。	○まずは大人たちの意識改革に取り組むことが重要だと思う。コミュニティ・スクールが新たな自分の居場所になるような取り組みが必要ではないかと。 ◎生徒会役員や委員会、部活動等、生徒が地域の方と直接ふれあえる場をできるだけつくる。(周年に向けての卒業生へのインタビューやアンケート、地域のチームとの練習試合、校外学習の支援等々)